

鶴岡市総合計画審議会企画専門委員会（会議概要）

- 日 時 令和3年12月24日(金) 午前9時30分から
- 会 場 鶴岡市役所6階 大会議室
- 委員発言の概要

未来創造プロジェクト関連

【若者・子育て世代応援プロジェクト関連】

- 若者の講座へ参加するハードルの高さを打開していくべき。親世代にもっと教育していけないと子供にも良い教育は与えられないと考える。
- 若者から地元の老舗の企業などをもっと知ってほしい。そのような企業へ、PRの仕方をレクチャーする機会を設けたりなどの工夫が必要と考える。
- 庄内地域の若者、高校生と地域の郷土愛を醸成する目的のワークショップを行ったが、高校生はとても忙しかった。高校生向けの企画をするのであれば、横の連携として繋がることを検討してほしい。
- 高校生達に休みの日に何をしているのかとアンケート調査をしたところ、ほぼゲームと動画配信サイトの視聴であった。そのような中で、郷土愛を醸成するのは難しい。今後どうしていくのかが重要であると考えます。
- 地元を離れた後でも地元の人と何かしらのゆるい繋がりを創っていくことを検討してほしい。大人、若者に取り組みにやりがいを感じてもらい、自分のメリットにもなるような仕組みが必要と考える。
- 移住するのは良いが、産婦人科と小児科が減っている。部署間を連携して一緒に考えてほしいと考える。
- 小児科が減っていることを認識してもらい、どうにかしなければならないと考える。
- 地元のことを地元の人がよく知らないと感じているので、地元のことを地域の子どもたちに知ってもらうことが必要と考える。
- キャリア教育に協力する企業もあると思うが、今後多くの学校に拡大、推進していく必要がある。将来的な移住定住、若者の地元就職の促進にも繋がると考えているので、キャリア教育をさらに進めてもらいたいと考える。
- 市が関東方面でイベントをする時に、こちらから人を連れて行くのではなく、関東方面にいる鶴岡出身の学生に手伝ってもらおうというのも良いと考える。
- 地元の高校生に、イベントをする時に、ボランティアのお願いをするのも良いと考える。高校生には発信力があると思うので、高校生に活躍してもらおうのも良いと考える。
- 若者と、今までずっと取り組まれている人達との取組のズレに顕著になってくると、

夢がしぼんでしまうことがある。年配の人たちの考え方、既存の組織の考え方を少し変えていかなければ、若い人達を受け入れられないのではないかと考える。

【全世代全対象型地域包括ケア推進プロジェクト関連】

■裕福ではない家庭へどのような施策を行っていくかが重要と考える。

【輝く女性活躍推進プロジェクト関連】

■母親世代の触れ合いの機会が増えてほしいと考える。

■輝く女性活躍推進プロジェクトについて、国を先駆けて男性の育児休暇が増えていた韓国を参考にすると良いと考える。企業と連携を図りながら育児休暇中の支給を高められるような取組みを考えていければ良い。

【食文化・食産業創造プロジェクト関連】

■ビストロ下水道の施策が食文化のプロジェクトの中に位置付けされていたらもっと盛り上がりを見せるのではないかと考える。

■加盟登録2番目になった大分県の臼杵市と交流を盛んにして、早くその食文化創造都市を市民のレベルの交流まで持っていくということが大切であると考え。

【産業強化イノベーションプロジェクト関連】

■企業を集約できるメリットを打ち出し、積極的に誘致するべきと考える。

■半導体の会社や工場が市にもあるが、それに対して何もしなくて良いのかと考える。もっと強みをアピールすれば、より多くの人々の定着が可能になるかと思う。新しいことに取り組んでいる一方で、そのようなところが弱いので、そこを見直していくのが良いと考える。

【城下町つるおかりブランディングプロジェクト関連】

■公共交通を使うと旅館などの割引をするなど、横の繋がりが必要と考える。

■市民が気軽に集まれて思い思いに時間を過ごせるまちなかのコモンズが大事である。大宝館、松ヶ岡などはとても大きなポテンシャルを持っている。そのようなスペースがどのように鶴岡に在るべきか、ネットワークや交通などについて議論することが重要であると考え。

■教育旅行や修学旅行をアピールできる素材もあるので、アピールしていくのはとても大事と考える。

■鶴岡公園正面広場について、キッチンカーがないとき、ここを散歩して佇みたくなるかなどを考慮しながら、まちなかのコモンズを意識していく視点が必要であると考え。キッチンカーがないときの視点などを多面的に考えて創ってい

くということを考えると良い。

【地域国際化 SDGs 推進プロジェクト関連】

- 森林文化都市宣言を生かしたまちづくりを市民と共有することができれば、大きな目標が出てくるかもしれないと考える。

新型コロナウイルス感染症関連

- 修学旅行生を呼び込むような取組が必要と考える。
- 旅館業や飲食業への具体的な支援の記載が必要と考える。
- アフターコロナを見据えた、他市に先駆けた取組が必要と考える。
- コロナの影響で事業が止まってしまっているものもあるが、コロナのせいにするのではなく、コロナの中でも未来が輝くのだと一生懸命頑張ってもらいたい。
- コロナをきっかけにもっと内側に目を向けるべきと考える。特に地元の人が地元のことを大事にしたり、知る機会などが必要と考える。
- コロナの影響で自治会の総会は集まることもなく、この2年間ほとんど実施されていない。町内会や自治組織にとっては、もう1年もそのような状況が続くだけでもさらに打撃を受ける。ウィズコロナの工夫をしながらできることは取り組んでいる。
- コロナ感染症のピーク後に、全部元に戻らないという見方もあるので、そのようなことを含めて総合計画も全体を修正していく必要があるかもしれないと考える。
- コロナ禍の下でその影響が今後どのように広がって続いていくのかも含めて、対応や計画の変更等を具体的に考えないといけないかもしれないと考える。
- ウィズコロナ、アフターコロナを含めて、総合計画を作り直すということもありうると思う。

未来創造プロジェクト関連以外・全般

- 既存のものに付加価値をつけ、積極的にアピールし、循環型社会のモデルになれるような政策が必要と考える。
- カーシェアリングなどの取り組みがあれば、転勤者の最初の投資が少なくなる。他にもカーシェアリングの活用方法はあると考える。
- 行政と社会福祉協議会の仕事の分担について整理する必要があると考える。
- 各プロジェクトでもバックキャストの考え方を取り入れてもらいたいと考える。
- 達成度に関連して、鶴岡市として得意なところ、不得意なところというのを改めて全体で共有することが必要と考える。

- 新聞に載せたりするなどの発信力が大事であるとする。
- 市がプロジェクトなどを進めるうえで、町内会や自治組織は、その下支えをする組織として協力することはできる。
- 人口減少をどうするのかなど、一つひとつの問題を見てしまうということによる問題点はないのかと考える。
- 変わらない課題に手を付けられず、何も変わらない状況を生んでしまっているのではないかと考える。全体として何を市として目標とするのかというところでデータを捉えても良いと考える。
- 計画書に誰がやるかということは明確に書いてないことがあり、市民がみると全部行政がやるように見える。行政と民でお互いに押し付け合うのではなく、一緒にやれるような仕組みづくりを整備する必要があると考える。
- 全体像としてこのまちはどこに進んでいくのか、目標に向かって、強くリーダーシップを発揮してメッセージを出してほしい。
- 全体的なグランドデザインを描き、こういう方向に行きますと言ってほしい。
- 子育て、人口減少、SDGsの取り組みは、鶴岡でなくても、地方都市どこもが取り組まなければならない問題である。鶴岡らしさというのはどこなのかと改めて私たち市民も考えないといけないと考える。